◉相模湾腰越港発↓腰越沖

秋の相模湾で青物祭り！ 腰越沖のウイリー五目盛況

本誌編集部／近田憲男 Norio Chikada

「このところウイリーでイナダがよく釣れていますよ。昨日は深場で55センチ、2.5キロのシロアマダイも上がりました」と、相模湾腰越港・喜久丸の高橋増彦船長。

同宿は相模湾のウイリー五目のパイオニアで、船長が親切でていねいに釣り方を教えてくれるし、レンタルタックルも充実しているのでビギナー連れのグループに人気。

魅力はなんといっても四季折々のターゲットが狙えること。目下はイナダやソウダガツオ、クロダイ、アマダイ、イトヨリ、ハナダイ、カイワリなどが釣れているそうだ。

腰越港を訪れたのは9月27日。受付で高橋船長にあいさつしてから船着き場へ向かう。この日、第十八喜久丸の舵を握るのは田村勇太船長。ベテランからビギナーまで11名を乗せて6時15分に出船。

港を出るとすぐ右手に江ノ島が見え、さらに進むと海上から富士山の絶景。のんびり眺めていると……。

「まずはイナダを狙います」と船長。10分ほどで腰越沖の水深20メートル前後のポイントに到着した。

▲秋が深まると相模湾のイナダはさらに期待度アップ

イナダは全員安打

「はい、どうぞ。水深20メートル。タナは上から15メートルです」と船長からのアナウンスでスタート。

釣り方を船長にうかがうと、「1回シャクるたびにリールのハンドルを1回巻いて5秒待つ、を繰り返しながら海面から5～15メートルの範囲を誘い上げてイナダの当たるタナを探してください」と教えてくれた。

投入前の大事な作業がコマセカゴの放出口の調整。このカゴの放出口の調整。この釣りはシャクリを入れるたびにほんの少量ずつ出るようにしなければならない。匂い程度のコマセで魚を寄せ、ウイリーに食わせるためだ。下窓は閉め、上窓だけを3分の1～4分の1開ける。

これによって、シャクリ上げたときの水圧で上窓から海水が流れ込み、水流によってパラッ、パラッと少量のコマセが放出される。

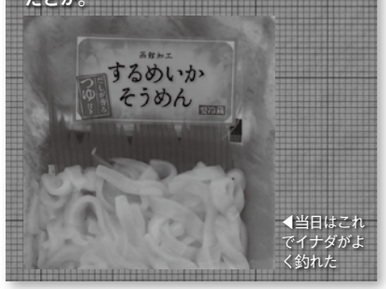
開始約10分で早くも左舷トモの方にアタリ。船長にタモ取りされたのは40センチ級のイナダ。よく太って体高もあり、実に見事なコンディションだ。

20分後、右舷胴の間から歓声が聞こえてくる。見に行くと船長がイナダを取り込んでいた。胴の間の方はグループで釣りにきており、4人全員が貸し道具を使用していることからも、釣り経験はあまりないようだ。突き詰めるとテクニカルな部類に入るウイリー五目だが、イナダはもちろん、表層を回遊しているソウダガツオやシイラなど何かしら釣れるので初心者でも十分楽しめるのがいい。

▲レンタルタックルで楽しむビギナー4人グループ

知っ得！ Tips and Tricks 特エサにイカそうめん

先バリが空バリタイプのウイリー仕掛けではオキアミを1匹掛けするのが基本だが、エサ取りが多いときはエサ持ちのいいイカタンをチョン掛けにしてもいい。イカタンを持参する場合におすすめなのがスーパーなどで購入できる「イカそうめん」。ちょうどいいサイズにカットしてあるのでエサとしてそのまま使える。ちなみに取材前日に釣れたシロアマダイのエサはイカタンだったとか。



◀当日はこれでイナダがよく釣れた

続いて竿を曲げたのは左ミヨシ2番の方、電動リールで巻き上げる様子を見ていた船長から、

「手巻きでヤリトリして」とアドバイス。電動リールは巻き上げが停止したときにテンションが緩んでバレることが多いため、手巻きでのヤリトリをすすめているのだとか。それに水深が浅く、青物の引きも味わえるという理由もあるらしい。

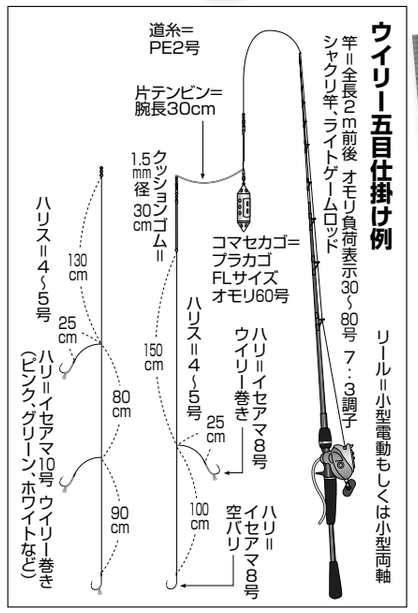
青物特有の強い引きののちに上がってきたのは当日最大48センチのイナダ。釣り上げたイナダをとてもうれしそうに眺めている。

▲イナダの活性が高いとウイリー巻きのハリに食ってくる

•Tackle Guide

クッションゴムの長さに注意。長すぎるとシャクってもアクションが吸収されて仕掛けが動かないことがあるため30センチがおすすめ。仕掛けはエサが付いていないと安心できない方は先バリが空バリタイプを使い、上バリのウイリー巻きでも釣れるようになったら、3本バリのウイリー巻きに替えて多点掛けを狙うのも一手。

ウイリー五目仕掛け例



深場はサバフグの猛攻

最初のうちは先バリのオキアミにポツポツと口を使う程度だったイナダも、やがてコマセが効いて活性が上がってくると上のウイリーバリにも食ってくるようになり、ときにはダブルやトリプルで取り込む光景も見られるようになった。

全員がイナダの顔を見ることができた10時半、

「深場に移動してアマダイやイトヨリを狙います」と移動の合図。5分後、前日シロアマダイが釣れたポイントに到着し期待が高まる中、

「どうぞ。水深60メートルです」とのアナウンスで再開。

皆さん、先バリが空バリタイプのウイリー仕掛けにオキアミを付けて投入。着底したら糸フケを取り、ビシで底を小づいてアマダイを誘う。

だが、コマセに寄せられたサバフグが邪魔をしてハリがチモトから切られる被害が船内のあちこちであったため、

「コマセはまかないでください」と船長から指示が出る。

これでようやくイトヨリダイやソコイトヨリが釣れるようになった。

サバフグが邪魔をするたびに船長は小移動を繰り返し、カイワリ、ハナダイなどをポツポツ拾い釣りするが、リリースサイズのアマダイが釣れたところで12時半の沖揚がりを迎える。

釣果は30～48センチのイナダが一人2～10本。ほかにソウダガツオ、シイラ、クロダイ、ハナダイ、イトヨリダイ、ソコイトヨリ、カイワリ、アカヤガラ、小型のアマダイやイサキなども交じった。

田村船長によると10月中旬以降も引き続き浅場のイナダをメインにショゴ（カンパチの若魚）、深場でアマダイやイトヨリ、ハナダイを狙っていくという。

▼35～40センチ級のイナダのトリプルを達成

◉船宿information

田村 勇太船長

相模湾腰越港
喜久丸
☎0467・32・8615
（詳細は巻末の情報欄参照）

▶料金＝ウイリー五目乗合一人1万500円（コマセ、氷付き）
▶備考＝予約乗合。5時半集合、6時15分出船。駐車場700円。WEB割引プランあり詳細はHP参照